令和６年度　第３回　松本「シンカ」推進会議　要旨

日時：令和７年３月１８日（火）
午後５時００分～
会場：第一応接室

１　開会

２　室長あいさつ

３　座長あいさつ

４　議題

⑴　第１１次基本計画の検証状況について
事務局から説明

⑵　第１２次基本計画の策定に向けた基礎調査等の結果について
事務局から説明

⑴についての主な意見

◆　１４５の指標の「達成」／「未達成」はどのように判断しているのか。

→　すべての成果指標は目標値を設定しており、目標値と令和７年度末の見込み値との比較をした。ＫＰＩを達成するに越したことはないが、それよりもＫＰＩに向かってどのような取組みをして、そのことをどう評価しているのを検証することが一番重要だと考えている。

◆　ＫＰＩの設定の仕方は非常に重要。ＫＰＩを設定すると、それを達成することが目的化してしまうという問題がある。達成できたかどうかが大事なのではなく、車のスピードメーカーのように目安として数字はみていくけど、そればかりにとらわれることなく、中身を併せてみていくという意識の持ち方が重要。

◆　重点戦略のゼロカーボン、ＤＸデジタル化についての指標が無いのはなぜか。

→　ゼロカーボン、ＤＸはすべての施策に共通する重点課題であり、それぞれの施策を進めていく上でゼロカーボンやＤＸの観点をもって進めていくということで指標としては掲載していない。ただ、まだゼロカーボンやＤＸの具体的な取組みについては整理ができていない状況。

⑵についての主な意見

◆　市民意見収集結果の中にある「人権ダイバーシティ」について。多文化共生は摩擦が起きることもあるので、それを越えた先がどうあるべきかを描いていかなければならない。日本全体で外国人増加の流れがある中で、企業経済活動の維持継続では、今後外国人の皆さんの力を借りないと成り立っていかない。様々な切り口がある中で、企業や個人任せではなく、行政としてどのように関わ

っていくのかをある程度描いていくタイミングになってきている。

◆　基本構想２０３０を作成する際、行動指針の一番はじめの「みとめる」というのは、どのような国籍、タイプの人であっても、まずは一旦この町ではきちんと認められるというところから出発するということに力点を置いて、行動指針の一番はじめに入れた。行動指針の最後が「いどむ」となっていて、挑んだあとに失敗があったとしても、「良い挑戦だった」とそれも含めて認める、という議論があった。

◆　２０１５年から２０２５年まで確実に右肩下がりに松本市も人口が減っていて、何もしなければ、１０年後、２０年後には確実にさらに人口は減る。人口は地域や国の力になるものなので、日本人だけでなく外国人の移住も含めて人口増を考えないといけない。そのためには移住者にとって住みやすいまちづくり、インフラの整備などが必然的に必要になってくる。

◆　人口は“数”をある程度意識していくとともに、それぞれの世代の層の“均衡”という両者を考えていくことが重要。

◆　市民意見の収集結果から、１０代以下の意見に「科学館」「博物館」「美術館」という言葉があり、学びを深めたい、そのような施設が欲しいということが見て取れる。２０代、３０代の意見には「遊び場」という言葉があり、確かに遊ぶところは少ないし、偏っている。２０代、４０代では自動車という言葉も大きい。どこから切り込むのかという話になるが、１０代の意見にあるような“学び”について政策を強化していくと今後の方向性として面白いのでは。

◆　大学生は、他の世代の方々と交流することなく大学生活を終える人が多い。若者に限らず全世代が交流できるような場を設け、繋げる機会を行政として取り組んでいくと良いと感じる。

◆　先進的な学校をつくると、そこで学ばせるために松本に来るケースがある。教育を求めて、多様性を求めてあえて松本に来る。大学だけでなく中学高校段階でも「学びの場」は人を移動させる理由になる。これからの学びで、あえて松本でやることに意義があることとして組み合わさっていけば、あらゆる世代において「学ぶ」ということが重要となる。

◆　“遊びの消費者”から“遊びの創り手”に。「遊び」が、〇〇ランドみたいに提供してもらう遊び場だけになってしまっている。自分で創造していく、限界を超えていくという遊びも子どもも大人も必要だと感じる。改めて「遊び」とは何だろうということをみんなで議論していけないか。全天候型の室内遊び場の需要も多いが、それを叶えた上で、もっとすごい遊び場が松本市郊外にある、というように２本立てで考えられると良いと思う。

◆　例えば軽井沢町はまちのコンセプトがはっきりとしている。一方で松本市は、例えば重点項目にあるデジタル化がこの三ガク都の中にどう落とし込められたのかが、具体的に我々市民には見えてこない。松本市がどのように見えているのか、ということを内側だけでなく、外側（市外）からの意見も調査として必要。

◆　教育について、松本市らしい公教育の実現は難しいのか？例えば環境学習や総合学習について、頑張る先生がいないと、頑張るＮＰＯがいないとできない形ではなく、きちんと予算をつけて松本

◆　松本市では、教育や子育ての分野に関して、学びに遊びや体験を、というコンセプトを教育大綱と教育振興基本計画に掲げて進めている。

◆　コロナ禍で知恵をしぼって作った２０３０、第１１次基本計画の総括をもっと丁寧にしていくべき。今進めているコンセプトの評価もして、今後深めていくのか、またはゼロベースで考えていくのか、曖昧なまま議論を進めることは危うい。２０３０で掲げた行動目標や三ガク都は大切にしていくことになるのでは。

◆　第１１次基本計画の検証をきちんと行うことで、１０年間の基本構想全体の中で、今どこにいるのか、現在地をはっきりすることが重要。地図みたいなものの中で、自分の場所がよくわからず、常に走ってはいるけど同じところを走っているかもしれない。第１１次の検証をする中で、目標未達成の施策について、これからもやる価値があるのか、軌道修正するのか、何か無理があったのかなど、ある程度客観的な視点で意識を共有できると第１２次で何に重点を置くかが見えてくる。

◆　色々な人が来て、多文化が入ってくる中で、守るべきものは守るという発想をもちながらも、積極的な「守り」が大事。

◆　市民が消費者立場ではなく、当事者になる意識の転換があると、松本は変わる。

◆　自分たちが「ここは絶対にゆずれない」という施策を打ち出していけると良い。市が守ってくれた、ではなく、自分たちが守ったことで価値が増える形に。担っていく人をいかに育てるかという人材を育てる教育が大切。

４　閉会

来年度については事務局から改めて連絡